

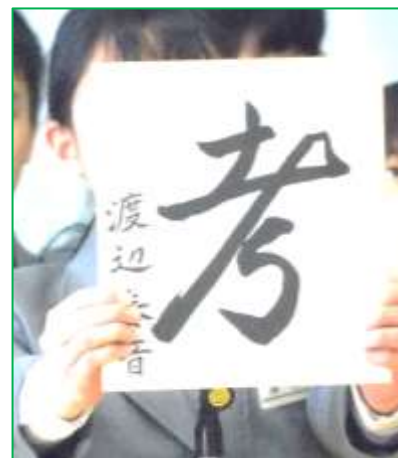
令和6年度 第8号 (1/24)

陽北中学校 第2学年

学年だより

すばらしい立志式でした

昨日、立志式が行われました。式は厳粛な雰囲気の中で行われ、校長先生の式辞、知事様からのメッセージをいただきました。また、田中大翔さん（5組）と渡邊智彩さん（4組）が立志作文を発表しました。その後、色紙に書いた「14歳の誓い」を一人ひとりが自分の言葉で発表しました。将来の夢、人としての生き方、社会への貢献など、真摯に自分と向き合う姿勢に心打たれました。



立志作文 代表生徒の発表

「何事にも全力」 5組 田中 大翔 さん

幼い頃からめんどくさがり屋だった僕は、何事もめんどくさく感じ、物事を適当に終わらせることが多々ありました。学校で何かを決めるときや、地域のイベント、行事に対して自らやりたいという意欲がなかなかありませんでした。その頃から家族に「何事もやってみて、経験を積まなきゃ成長しないよ」と度々言われるようになりました。そして、「積極的にない自分はだらしがない」と思い、今年度の文化祭実行委員に自分から手を挙げて、チャレンジしてみました。最初は緊張して、本当に僕にできるのかなと色々な思いが募りましたが、文化祭をより良くしようと考えている時間は充実していて、楽しく感じました。確かに大変なこともありましたが、文化祭が無事に終わったときの達成感、少しだけ自分が成長できたという実感が湧いてきて、チャレンジした後でしか味わえない感覚を覚えることができてとても嬉しかったと今でも思います。そのような体験から僕は得意なことはもちろん、苦手なことやどんなことにも全力で取り組む人になりたいと思うようになりました。そのためには、課題を期限内に提出することはもちろん、質のよい勉強を行ったり、学校の授業で先生の話をよく聞いたりしていきます。また、日常生活のどんなことにも全力で挑戦して、経験値を高め、自分の成長に繋げていきます。

立志を迎えた今、僕の将来を僕自身の手でより輝かしいものにしていくため、今、目の前にあることを一生懸命頑張りたいと思います。

「目指すべき人たちと目指したい場所」 4組 氏名 渡邊 智彩 さん

立志を迎え、今までのことを振り返ってみました。一番に思い浮かんだのは部活動のことです。中学校へ入学した際に、最も変化を感じた活動でした。私は悩んだ末、吹奏楽部に入部することに決めました。決断の大きな理由は、小学6年生のときの中学校訪問での光景が頭から離れなかったからです。全員で息を合わせて一つの音楽を作り上げていくことにとても魅力を感じるとともに、楽器を奏でるかっこよさに目を奪われました。入部してからの日々は小学生の頃とはがらりと変わり、忙しい毎日でした。放課後、暗くなるまでの練習や休日の練習、夏休みはお盆になるまで休みがほとんどありませんでした。しかし、厳しい練習を乗り越えた先に、自分の成長を実感することができました。また、ともに部活に励んでいる仲間との絆も深まったような気がします。そのような毎日を送っている中で、欠かすことのできないのが先輩の存在でした。先輩と話をしたり、演奏をしたりすることはとても緊張しましたが、楽しく、貴重な経験になりました。また、先輩からたくさんのアドバイスをいただき、それに習って練習をしたり、先輩の音や演奏を聴いて自分の直すべき箇所を見つけたり、先輩は目指すべきお手本となってくださいました。ときには自分との実力の差にショックを受け、演奏に不安を抱いたこともありましたが、これまで頑張ってきたのは、先輩の存在がとても大きかったように感じます。だからこそ、先輩方と受賞した金賞、そして全国の舞台は私にとって一生忘れられない思い出となりました。今、私は副部長として尽力しています。部長をサポートし、吹奏楽部を引っ張っていく責任のある立場です。練習するポイント、伝わりやすい言葉選び、後輩への気遣いなど、自分の周りにいる仲間を引っ張っていくのは簡単ではありません。それでも30人を率っていく部長のことを、時には同じ目線で、またある時は部員目線で、全力でサポートしていきたいです。そして、尊敬する先輩方のようなかっこいい先輩になりたいです。私は、これからの吹奏楽部を3年連続の金賞受賞を目指しながら、全員が楽しくやりがいを感じられる部活動にしていきたいと思っています。そのためには、コミュニケーションやお互いのアドバイスを大切にして、全員で成長していく必要があると考えています。自分一人で悩むだけではなく、積極的に皆で考え、話し合っていく時間を取っていきたいです。目指すべき人たちに追いつき、目指したい場所に自らの足でたどり着けるように、努力していきます。

※この学年だよりには、生徒の名前や写真等が掲載されていますので、取扱にはご注意ください。（文責：鈴木）